

教科	科 目	単位数	学年・クラス
地理歴史	地理総合	3	2年1組

1 使用教材

使用教科書	高等学校 新地理総合・新詳高等地図
出版社	帝国書院
副教材等	高等学校新地理総合ノート
出版社	帝国書院

2 学習の目標

1 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

3 評価の観点・方法

評価の観点	内 容
① 知識・技能	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

評価方法	観点別重要度			主な評価項目
	①	②	③	
授業の参加	C	B	A	先生からの質問に対する発言など
レポート	B	A	B	学習のまとめや意見の記述内容
定期考査	A	B	C	知識のほか、資料の読み取り問題を含む

※表中のA・B・Cは評価の重要性を高い順に表している。

4 学習計画

学期	学 習 内 容	学習のねらい
1 学期	<p>第1部 地図でとらえる現代世界</p> <p>第1章 地図と地理情報システム</p> <p>1 地球上の位置と時差</p> <p>2 地図の役割と種類</p> <p>第2章 結びつきを深める現代世界</p> <p>1 現代世界の国家と領域</p> <p>2 グローバル化する世界</p> <p>第2部 国際理解と国際協力</p> <p>第1章 生活文化の多様性と国際理解</p> <p>序 生活文化の多様性</p> <p>1 世界の地形と人々の生活</p> <p>2 世界の気候と人々の生活</p> <p>オセアニア・東南アジア</p> <p>3 世界の言語・宗教と人々の生活</p>	<p>現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結びつきなどについて理解する。</p> <p>日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。</p> <p>世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつこと、地理的環境の変化によって変容することや自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。</p>
2 学期	<p>中央アジア・西アジア・北アフリカ・インド</p> <p>4 歴史的背景と人々の生活</p> <p>ラテンアメリカ・サハラ以南アフリカ・ロシア</p> <p>5 世界の産業と人々の生活</p> <p>アメリカ・東アジア・ヨーロッパ</p> <p>第2章 地球的課題と国際協力</p> <p>1 複雑に絡み合う地球的課題</p> <p>2 地球環境問題</p> <p>3 資源・エネルギー問題</p> <p>4 人口問題</p> <p>5 食料問題</p> <p>6 都市・居住問題</p>	<p>世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解する。</p>
3 学期	<p>第三部 持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>第1章 自然環境と防災</p> <p>1 日本の自然環境</p> <p>2 地震・津波と防災</p> <p>3 火山災害と防災</p> <p>4 気象災害と防災</p> <p>5 自然災害への備え</p> <p>第2章 生活圏の調査と地域の展望</p> <p>1 生活圏の調査と地域の展望</p>	<p>我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。</p> <p>生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。</p>